

キリスト教思想特講I				単位数	2単位
授業コード	15810	科目ナンバリング	410Z0-2340-o2	開講年度学期	2022年度第1期
担当者氏名	岡田 紅理子				
時間割備考					
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)					
本授業の概要					
<p>キリスト教は、イエスという人物を核とした宗教運動として、ローマ帝国支配下においてユダヤ教内部から生まれた。つまりキリスト教は、ユダヤ教やヘレニズム・ローマ社会の思想的な影響を強く受け、形成されたのである。さらに、宗教改革・大航海時代から植民地・帝国主義時代、そして世界大戦を経るなかで、キリスト教はそれぞれの時代、文化、文脈に応答しながら、さまざまな変革・刷新を経験してきた。</p> <p>本科目では、いわゆる「世界宗教」となったキリスト教の教典である「聖書」を読み解くために必要な知識を身につけ、キリスト教の本質とアイデンティティを考察していく。</p> <p>1期では、イエスの思想と行動の原理について、当時の宗教、文化、社会状況とあわせて検討していく。</p>					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	聖書に記された出来事の史実ばかりを追うのではなく、それが伝えようとする意味を検討することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	イエスがことばとわざによって示した神の国を理解し、説明することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力	
3	イエス運動の変遷を整理し、その特徴を説明することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力	
4	自分の気づきや考えを他者に伝えるよう言語化することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	受講態度およびリアクションペーパー 40%			1/2/3/4	
2	定期試験 60%			1/2/3	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
1 インTRODクシヨ 2 聖書とは 3 人間と神の関係 4 キリスト待望論 5 イエスが生きた時代 6 イエスと使徒たちの出会い 7 イエスが伝えた神の国①父である神 8 イエスが伝えた神の国②たとえ話 9 イエスが伝えた神の国③奇跡物語 10 イエスが伝えた神の国④ゆるしといやし 11 イエスに訪れた危機 12 受難、死、復活①死を覚悟するイエス 13 受難、死、復活②最後の晩餐とゲッセマネの祈り 14 受難、死、復活③復活顕現物語 15 ふりかえり 定期試験					

定期試験
定期試験
試験のフィードバックの方法
メールでの質問を受け付ける。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
（予習）事前に指定された聖書箇所に通す（30分）。 （復習）講義内容を確認、整理するとともに、自分が考えたことをメモに残す（30分）。
必携書（教科書販売）
『聖書（新共同訳）』もしくは『聖書（聖書協会共同訳）』（いずれも日本聖書協会） ※基本的には大学で購入したものを使用する。すでに持っている場合はその聖書を使用してもよいが、新約と旧約の両方が入っているものとする。
必携書（教科書販売以外）
<参考書> 百瀬文晃『キリスト教の原点』教友社、2004
オフィスアワー
質問、相談は随時メールで受け付けるが、必要に応じて面談の時間を指定する。
連絡先
okada@m.ndsu.ac.jp
留意事項
<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者の人数によっては、開講されない場合がある。</li> <li>・やむを得ない理由を除き、原則、1期と2期の両方を履修すること。</li> <li>・コロナ禍による授業形式や履修者の理解度に応じて、授業スケジュールに変更が生じる場合がある。</li> </ul>

キリスト教思想特講II				単位数	2単位
授業コード	15815	科目ナンバリング	410Z0-2340-o2	開講年度学期	2022年度第2期
担当者氏名	岡田 紅理子				
時間割備考					
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)					
本授業の概要					
<p>キリスト教は、イエスという人物を核とした宗教運動として、ローマ帝国支配下においてユダヤ教内部から生まれた。つまりキリスト教は、ユダヤ教やヘレニズム・ローマ社会の思想的な影響を強く受け、形成されたのである。さらに、宗教改革・大航海時代から植民地・帝国主義時代、そして世界大戦を経るなかで、キリスト教はそれぞれの時代、文化、文脈に応答しながら、さまざまな変革・刷新を経験してきた。</p> <p>本科目では、いわゆる「世界宗教」となったキリスト教の教典である「聖書」を読み解くために必要な知識を身につけ、キリスト教の本質とアイデンティティを考察していく。</p> <p>2期では、1期の「キリスト教思想特講I」に続くものとして、イエスの死と彼の弟子たちの復活体験から生まれたイエス運動がキリスト教として成立・発展してきた、今日にいたる過程をカトリック教会を中心として概観していく。</p>					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	聖書に記された出来事の史実ばかりを追うのではなく、それが伝えようとする意味を検討することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	イエスがことばとわざによって示した神の国を理解し、説明することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力	
3	キリスト教の歴史的また思想的な変遷を整理し、それぞれの特徴を説明することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力	
4	カトリック教会が省察してきた自らの使命を考察し、他者に伝えるよう言語化することができる。			思考・判断・表現力/主体性	
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	受講態度およびリアクションペーパー 40%			1/2/3/4	
2	定期試験 60%			1/2/3	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1期のおさらい</li> <li>使徒たちの復活体験</li> <li>原始キリスト教の成立</li> <li>ユダヤ教との決別</li> <li>使徒たちの宣教</li> <li>異端との闘い</li> <li>正統信仰の形成</li> <li>中世のキリスト教</li> <li>宗教改革と対抗宗教改革</li> <li>世界宣教の時代</li> <li>近代の教会①第一バチカン公会議</li> <li>近代の教会②第二バチカン公会議</li> <li>現代の教会①「地上を旅する」神の民</li> <li>現代の教会①日本のカトリック教会と社会</li> <li>まとめ</li> </ol> <p>定期試験</p>					

定期試験
定期試験
試験のフィードバックの方法
メールでの質問を受け付ける。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
（予習）事前に指定された聖書箇所もしくは配布資料に目を通す（30分）。 （復習）講義内容を確認、整理するとともに、わからなかった点について紹介された書籍で調べる（30分）。
必携書（教科書販売）
『聖書（新共同訳）』もしくは『聖書（聖書協会共同訳）』（いずれも日本聖書協会） ※基本的には大学で購入したものを使用する。すでに持っている場合はその聖書を使用してもよいが、新約と旧約の両方が入っているものとする。
必携書（教科書販売以外）
<参考書> 百瀬文晃『キリスト教の本質と展開』教友社、2004
オフィスアワー
質問、相談は随時メールで受け付けるが、必要に応じて面談の時間を指定する。
連絡先
okada@m.ndsu.ac.jp
留意事項
<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者の人数によっては、開講されない場合がある。</li> <li>・やむを得ない理由を除き、原則、1期と2期の両方を履修すること。</li> <li>・コロナ禍による授業形式や履修者の理解度に応じて、授業スケジュールに変更が生じる場合がある。</li> </ul>

キリスト教文化特講I				単位数	2単位
授業コード	15820	科目ナンバリング	410Z0-2340-o2	開講年度学期	2022年度第1期
担当者氏名	岡田 紅理子				
時間割備考					
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)					
本授業の概要					
<p>キリスト教は世界最大の信者数を擁する宗教だといわれる。しかし、一口に「キリスト教」といっても、カトリック教会、プロテスタント教会、東方正教会に大別されるうえに、形成された背景、組織としてのあり方、信者が置かれてきた状況などはさまざまである。さらに、世界各地に広まっていくなかで、キリスト教は宣教地に影響を与えるだけでなく、自らもその土地の文化的要素を取り入れ、地域・国によって異なる発展を遂げてきた。本科目のねらいは、「東南アジア」および「東アジア」と呼ばれる地域におけるキリスト教（特にカトリック教会）の歩みと現在のありようを、それぞれの土地の宗教、社会、文化との関係から検討することにある。1期では「東南アジア」に、2期では「東アジア」に注目する。</p>					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	授業で取り上げた国・地域のキリスト教について、相違・個性だけでなく、それぞれの関連性や共通性を考察することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力	
2	授業で学んだ以外の知識・情報を書籍から主体的に調べ、課題に反映させることができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	自分の気づきや考えを他者に伝わるよう言語化することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	受講態度 20%			1/2	
2	リアクションペーパー 30%			1/2/3	
3	レポート 50%			1/2/3	
4					
5					
実務経験のある教員による科目					
実務経験の授業への活用方法					
<p>日本語以外の言語による授業</p>					
授業予定一覧					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ①ントロダクション</li> <li>2. ②キリスト教宣教のはじまり</li> <li>3. ③キリスト教を構成する諸教会・諸教派</li> <li>4. ④「東南アジア」とは</li> <li>5. ⑤フィリピン</li> <li>6. ⑥ミャンマー（ビルマ）</li> <li>7. ⑦インドネシア</li> <li>8. ⑧ベトナム</li> <li>9. 講演①：タイの王政とキリスト教</li> <li>10. ⑩ラオス</li> <li>11. ⑪マレーシア</li> <li>12. ⑫シンガポール、ブルネイ</li> <li>13. ⑬インドネシア、東ティモール</li> <li>14. 講演②：日本のフィリピン人カトリック共同体</li> <li>15. ⑮ふりかえり</li> </ol>					

定期試験 レポート
試験のフィードバックの方法 メールでの質問を受け付ける。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 （予習）講義で取り上げる国・地域の事情について新聞や雑誌で調べ、読む（30分）。 （復習）講義内容を確認、整理するとともに、紹介された書籍を読む（30分）。
必携書（教科書販売）
必携書（教科書販売以外） <参考書> ・佐藤望ほか『アカデミックスキルズ 大学生のための知的技法入門（第3版）』慶應義塾大学出版会、2020
オフィスアワー 質問、相談は随時メールで受け付けるが、必要に応じて面談の時間を指定する。
連絡先 okada@m.ndsu.ac.jp
留意事項 ・受講者の人数によっては、開講されない場合がある。 ・原則、1期と2期の両方を履修することが望ましいが、半期だけの履修を妨げない。 ・コロナ禍による授業形式や特別講義講師の招聘への対応により、授業スケジュールに変更が生じる場合がある。

キリスト教文化特講II				単位数	2単位
授業コード	15825	科目ナンバリング	410Z0-2340-o2	開講年度学期	2022年度第2期
担当者氏名	岡田 紅理子				
時間割備考					
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)					
本授業の概要					
<p>キリスト教は世界最大の信者数を擁する宗教だといわれる。しかし、一口に「キリスト教」といっても、カトリック教会、プロテスタント教会、東方正教会に大別されるうえに、形成された背景、組織としてのあり方、信者が置かれてきた状況などはさまざまである。さらに、世界各地に広まっていくなかで、キリスト教は宣教地に影響を与えるだけでなく、自らもその土地の文化的要素を取り入れ、国・地域によって異なる発展を遂げてきた。</p> <p>本科目のねらいは、「東南アジア」および「東アジア」と呼ばれる地域におけるキリスト教（特にカトリック教会）の歩みと現在のありようを、それぞれの土地の宗教、社会、文化との関係から検討することにある。</p> <p>2期では、1期の「キリスト教文化特講I」に続くものとして「東アジア」に注目する。その際、講師が専門とする台湾に比重を置き、また日本については受講者数に応じて受講者によるプレゼンテーションを交え、主体的な学びを深めていく。</p>					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	授業で取り上げた国・地域のキリスト教について、相違・個性性だけではなく、それぞれの関連性や共通性を考察することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力	
2	授業で学んだ以外の知識・情報を書籍から主体的に調べ、課題に反映させることができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	自分の気づきや考えを他者に伝わるよう言語化することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	受講態度 20%			1/2	
2	リアクションペーパーおよびプレゼンテーション 40%			1/2/3	
3	レポート 40%			1/2/3	
4					
5					
実務経験のある教員による科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 1期のおさらい</li> <li>2. 「東アジア」とは</li> <li>3. 中国、香港、マカオ</li> <li>4. 田ンゴル</li> <li>5. 韓国、北朝鮮</li> <li>6. 台湾①「四大族群」がつくってきた社会</li> <li>7. 台湾②「麗しき島」とキリスト教</li> <li>8. 台湾③日本植民地統治から「光復」後のキリスト教</li> <li>9. 日本①メディアで描かれるキリスト教</li> <li>10. 日本②映画にみるキリスト教</li> <li>11. 日本③戦国史とキリスト教</li> <li>12. 日本④迫害と潜伏</li> <li>13. 日本⑤キリシタンと岡山のつながり</li> <li>14. 日本カトリック教会の今日</li> <li>15. まとめ</li> </ol>					

定期試験 レポート
試験のフィードバックの方法 メールでの質問を受け付ける。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 （予習）講義で取り上げる国・地域の事情について新聞や雑誌で調べ、読む（30分）。 （復習）講義内容を確認、整理するとともに、紹介された書籍を読む（30分）。
必携書（教科書販売）
必携書（教科書販売以外） <参考書> ・川村信三『戦国宗教社会＝思想史：キリシタン事例からの考察』知泉書館、2011 ・佐藤望ほか『アカデミックスキルズ 大学生のための知的技法入門（第3版）』慶應義塾大学出版会、2020
オフィスアワー 質問、相談は随時メールで受け付けるが、必要に応じて面談の時間を指定する。
連絡先 okada@m.ndsu.ac.jp
留意事項 ・受講者の人数によっては、開講されない場合がある。 ・原則、1期と2期の両方を履修することが望ましいが、半期のみの履修を妨げない。 ・コロナ禍による授業形式への対応により、授業スケジュールに変更が生じる場合がある。



キリスト教文学特講 I I				単位数	4単位
授業コード	15840	科目ナンバリング	410Z0-2340-o4	開講年度学期	2022年度第1期、2022年度第2期
担当者氏名	山根 道公				
時間割備考					
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)					
本授業の概要					
日本文学者のなかで生涯にわたり、キリスト教と深く関わり、それをテーマにした作品を書き続けた作家の代表として、I期には芥川龍之介、II期には遠藤周作を取り上げる。それらの作家の生涯をたどりながら、そこから生まれたキリスト教的テーマをもつ作品を年代順に読み解くことで、神と悪魔、エゴイズムと愛、アガペーとエロス、父性的神と母性的神、罪と罰、愛と許し、同伴者イエス、人間存在の根源的渴望、人間と人間を超えたものとの関係と相克などのキリスト教的テーマを探究する。					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	1. 各回の授業で取り上げる作品について自分の読解や意見を述べるができる。			思考・判断・表現力/主体性	
2	2. 芥川龍之介の作品を、キリスト教に関係したテーマで分析してレポートにまとめることができる。			知識・技能/思考・判断・表現力	
3	3. 遠藤周作の作品を、キリスト教に関係したテーマで分析してレポートにまとめることができる			知識・技能/思考・判断・表現力	
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	・ 授業中の発言・リアクションペーパー…30% (到達目標1)			1	
2	・ I期末レポート…35% (到達目標2)			2	
3	・ II期末レポート…35% (到達目標3)			3	
4					
5					
実務経験のある教員による科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
I期					
1 日本の近代文学者とキリスト教について概説					
2 芥川龍之介の破恋体験とキリスト教					
3 「老狂人」					
4 「羅生門」					
5 「鼻」「蜘蛛の糸」「杜子春」「白」					
6 「煙草と悪魔」「るしへる」					
7 「奉教人の死」					
8 「きりしとほろ上人伝」					
9 「南京の基督」					
10 「神々の微笑」					
11 「おぎん」「おしの」					
12 「歯車」					
13 「西方の人」					
14 「続西方の人」					
15 芥川龍之介の魂の渴望と死と聖書・(I期の期末レポート作成について)					
II期					
1 遠藤周作とキリスト教					
2 遠藤周作と母・岡山					
3 遠藤周作と留学・フランス					
4 「アデンまで」「白い人」「黄色い人」					
5 「海と毒薬」					
6 「おバカさん」「聖書のなかの女性たち」					
7 「わたしが・棄てた・女」					
8 「満潮の時刻」					
9 「沈黙」					
10 「死海のほとり」					
11 「侍」					
12 「女の一生」					
13 「スキャンダル」					
14 「深い河」					
15 遠藤周作の魂の故郷への帰還・(II期の期末レポート作成について)					

<b>定期試験</b> I 期末レポート・II 期末レポート
<b>試験のフィードバックの方法</b>
<b>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間</b> ○授業で取り上げる作品については、事前に授業中に指示するので、予習として読んで自分の意見をもって授業に臨むこと。（2時間程度） ○期末レポートの資料にできるように、毎回の授業の内容を復習し、まとめておくこと。（1時間程度）
<b>必携書（教科書販売）</b> 使用しない。
<b>必携書（教科書販売以外）</b> 読んでくるべき作品については授業中に指示する。 授業で資料を配布する。
<b>オフィスアワー</b> オフィスアワーは授業中に指示する。質問は随時、電子メールで受け付ける。
<b>連絡先</b> yamane@m.ndsu.ac.jp
<b>留意事項</b> ○授業が一方通行にならないようにリアクションペーパーに毎回、意見・質問等のメモを書いてもらう。受講者は主体的に授業に臨むこと。

キリスト教文学特講IIA				【単位数】	2単位
授業コード	15841	科目ナンバリング	410Z0-2340-o2	開講年度学期	2022年度第1期
担当者氏名	山根 道公				
時間割備考					
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)					
本授業の概要					
日本文学者のなかでキリスト教と深く関わった作家として芥川龍之介を取り上げ、作家の生涯を追いながら、キリスト教や聖書と関わる作品を取り上げ、エゴイズムと愛、神と悪魔、アガペーとエロス、父性的神と母性的神、罪と罰、愛と許し、人間存在の根源的渴望、同伴者イエス等のキリスト教的テーマに注目して作品を読み解くことを目的とする。そうした作品分析を学ぶことで、分析の方法と論文へのまとめ方の技術を習得する。					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	1. 各回の授業で取り上げる作品について自分の読解や意見を述べるができる。			思考・判断・表現力/主体性	
2	2. 芥川龍之介の文学とキリスト教に関係したテーマで、その作品を読解、分析してレポートにまとめることができる。			知識・技能/思考・判断・表現力	
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	授業中の発言とリアクションペーパー (30%)			1	
2	I 期末レポート (70%)			1/2	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
I 期 1 日本の近代文学者とキリスト教について概説 2 芥川龍之介の破恋体験とキリスト教 3 「老狂人」 4 「羅生門」 5 「鼻」「蜘蛛の糸」「杜子春」「白」 6 「煙草と悪魔」「るしへる」 7 「奉教人の死」 8 「きりしとほろ上人伝」 9 「南京の基督」 10 「神々の微笑」 11 「おぎん」「おしの」 12 「齒車」 13 「西方の人」 14 「続西方の人」 15 芥川龍之介の魂の渴望と死と聖書・(I 期の期末レポート作成について)					

<b>定期試験</b> I期の期末レポート。
<b>試験のフィードバックの方法</b> リアクションペーパーに対する解説を授業内に口頭で行う。 15週目の授業で期末レポート作成の方法を説明し、各自の質問に応じる。
<b>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間</b> 授業で取り上げる作品については、事前に授業中に指示するので、予習として読んで自分の意見をもって授業に臨むこと（約2時間）。 期末レポートの資料にできるように、毎回の授業の内容を復習し、まとめておくこと（約1時間）。
<b>必携書（教科書販売）</b> 教科書指定はない。
<b>必携書（教科書販売以外）</b> 〈参考書等〉 適宜、授業内で紹介する。
<b>オフィスアワー</b> オフィスアワーについては、授業中に指示する。質問は随時、電子メールで受け付ける。
<b>連絡先</b>
<b>留意事項</b> 取り上げる作品は事前に読んで授業に臨むこと。 リアクションペーパーに意見・質問などをまとめて提出してもらうので主体的に授業に臨むこと。

キリスト教文学特講IIB				単位数	2単位
授業コード	15842	科目ナンバリング	410Z0-2340-o2	開講年度学期	2022年度第2期
担当者氏名	山根 道公				
時間割備考					
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)					
本授業の概要					
日本の現代文学者のなかでキリスト教と深く関わった作家の代表として世界的に評価の高い、岡山とも関係の深い遠藤周作を取り上げる。作家の生涯を追いながら、人間と人間を超えたものとの関係と相克、エゴイズムと愛、アガペーとエロス、父性的神と母性的神、罪と罰、愛と許し、人間存在の根源的渴望、同伴者イエス等のキリスト教的テーマに注目し、作品を読み解くことを目的とする。そうした作品分析を学ぶことで、分析の方法と論文へのまとめ方の技術を習得する。					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	1. 各回の授業で取り上げる作品について自分の読解や意見を述べるができる。				
2	2. 遠藤周作の文学とキリスト教に関係したテーマで、その作品を読解、分析してレポートにまとめることができる				
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	・ 授業中の発言・リアクションペーパー…30%				1
2	・ II 期末レポート…70%				2
3					
4					
5					
実務経験のある教員による科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
II 期					
1 遠藤周作とキリスト教					
2 遠藤周作と母と岡山					
3 遠藤周作と留学・フランス					
4 「アデンまで」「白い人」「黄色い人」					
5 「海と毒薬」					
6 「おバカさん」「聖書のなかの女性たち」					
7 「わたしが・棄てた・女」					
8 「満潮の時刻」					
9 「沈黙」					
10 「死海のほとり」					
11 「侍」					
12 「女の一生」					
13 「スキャンダル」					
14 「深い河」					
15 遠藤周作の魂の故郷への帰還・(II 期の期末レポート作成について)					

定期試験 期末レポート
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 ○授業で取り上げる作品については、事前に授業中に指示するので、予習として読んで自分の意見をもって授業に臨むこと。（2時間程度） ○期末レポートの資料にできるように、毎回の授業の内容を復習し、まとめておくこと。（1時間程度）
必携書（教科書販売） 使用しない。
必携書（教科書販売以外） 読んでくるべき作品については授業中に指示する。 授業で資料を配布する。
オフィスアワー オフィスアワーは授業中に指示する。質問は随時、電子メールで受け付ける。
連絡先 yamane@m.ndsu.ac.jp
留意事項 ○授業が一方通行にならないようにリアクションペーパーに毎回、意見・質問等のメモを書いてもらう。受講者は主体的に授業に臨むこと。

キリスト教文学特講I				単位数	2単位
授業コード	15850	科目ナンバリング	410Z0-2340-o2	開講年度学期	2022年度第1期
担当者氏名	山根 道公				
時間割備考					
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)					
本授業の概要					
日本文学者のなかでキリスト教と深く関わった作家として芥川龍之介を取り上げ、作家の生涯を追いながら、キリスト教や聖書と関わる作品を取り上げ、エゴイズムと愛、神と悪魔、アガペーとエロス、父性的神と母性的神、罪と罰、愛と許し、人間存在の根源的渴望、同伴者イエス等のキリスト教的テーマに注目して作品を読み解くことを目的とする。そうした作品分析を学ぶことで、分析の方法と論文へのまとめ方の技術を習得する。					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	1. 各回の授業で取り上げる作品について自分の読解や意見を述べるができる。			思考・判断・表現力/主体性	
2	2. 芥川龍之介の文学とキリスト教に関係したテーマで、その作品を読解、分析してレポートにまとめることができる。			知識・技能/思考・判断・表現力	
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	授業中の発言とリアクションペーパー (30%)			1	
2	I 期末レポート (70%)			1/2	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
I 期 1 日本の近代文学者とキリスト教について概説 2 芥川龍之介の破恋体験とキリスト教 3 「老狂人」 4 「羅生門」 5 「鼻」「蜘蛛の糸」「杜子春」「白」 6 「煙草と悪魔」「るしへる」 7 「奉教人の死」 8 「きりしとほろ上人伝」 9 「南京の基督」 10 「神々の微笑」 11 「おぎん」「おしの」 12 「歯車」 13 「西方の人」 14 「続西方の人」 15 芥川龍之介の魂の渴望と死と聖書・(I 期の期末レポート作成について)					

<b>定期試験</b> I期の期末レポート。
<b>試験のフィードバックの方法</b> リアクションペーパーに対する解説を授業内に口頭で行う。 15週目の授業で期末レポート作成の方法を説明し、各自の質問に応じる。
<b>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間</b> 授業で取り上げる作品については、事前に授業中に指示するので、予習として読んで自分の意見をもって授業に臨むこと（約2時間）。 期末レポートの資料にできるように、毎回の授業の内容を復習し、まとめておくこと（約1時間）。
<b>必携書（教科書販売）</b> 教科書指定はない。
<b>必携書（教科書販売以外）</b> 〈参考書等〉 適宜、授業内で紹介する。
<b>オフィスアワー</b> オフィスアワーについては、授業中に指示する。質問は随時、電子メールで受け付ける。
<b>連絡先</b>
<b>留意事項</b> 取り上げる作品は事前に読んで授業に臨むこと。 リアクションペーパーに意見・質問などをまとめて提出してもらうので主体的に授業に臨むこと。



キリスト教文学特講II				【単位数】	2単位
授業コード	15855	科目ナンバリング	410Z0-2340-o2	開講年度学期	2022年度第2期
担当者氏名	山根 道公				
時間割備考					
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)					
本授業の概要					
日本の現代文学者のなかでキリスト教と深く関わった作家の代表として世界的に評価の高い、岡山とも関係の深い遠藤周作を取り上げる。作家の生涯を追いながら、日本人とキリスト教、アガペーとエロス、父性的神と母性的神、罪と恥、愛と許し、人間存在の根源的渴望、人間と人間を超えたものとの関係と相克、同伴者イエス等のキリスト教的テーマに注目し、作品を読み解くことを目的とする。そうした作品分析を学ぶことで、分析の方法と論文へのまとめ方の技術を習得する。					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	1. 各回の授業で取り上げる作品について自分の読解や意見を述べるができる。				
2	2. 遠藤周作の文学とキリスト教に関係したテーマで、その作品を読解、分析してレポートにまとめることができる				
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	・ 授業中の発言・リアクションペーパー…30%				1
2	・ II 期末レポート…70%				2
3					
4					
5					
実務経験のある教員による科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
II 期					
1 遠藤周作とキリスト教					
2 遠藤周作と母と岡山					
3 遠藤周作と留学・フランス					
4 「アデンまで」「白い人」「黄色い人」					
5 「海と毒薬」					
6 「おバカさん」「聖書のなかの女性たち」					
7 「わたしが・棄てた・女」					
8 「満潮の時刻」					
9 「沈黙」					
10 「死海のほとり」					
11 「侍」					
12 「女の一生」					
13 「スキャンダル」					
14 「深い河」					
15 遠藤周作の魂の故郷への帰還・(II 期の期末レポート作成について)					

定期試験 期末レポート
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 ○授業で取り上げる作品については、事前に授業中に指示するので、予習として読んで自分の意見をもって授業に臨むこと。（2時間程度） ○期末レポートの資料にできるように、毎回の授業の内容を復習し、まとめておくこと。（1時間程度）
必携書（教科書販売） 使用しない。
必携書（教科書販売以外） 読んでくるべき作品については授業中に指示する。 授業で資料を配布する。
オフィスアワー オフィスアワーは授業中に指示する。質問は随時、電子メールで受け付ける。
連絡先 yamane@m.ndsu.ac.jp
留意事項 ○授業が一方通行にならないようにリアクションペーパーに毎回、意見・質問等のメモを書いてもらう。受講者は主体的に授業に臨むこと。

キリスト教文学演習ⅠⅠ				単位数	4単位
授業コード	15930	科目ナンバリング	410Z0-3400-o4	開講年度学期	2022年度第1期、2022年度第2期
担当者氏名	山根 道公				
時間割備考					
授業形態(主)	2 演習				
授業形態(副)					
本授業の概要					
近代・現代の日本文学において、芥川龍之介、太宰治、遠藤周作、三浦綾子、宮沢賢治などをはじめとしてキリスト教と関わりのある文学作品を書いた作家は実に多い。また、外国のキリスト教と関わる文学作品からも多大な影響を日本の文学者は受けている。そうした文学作品を取り上げ、そこにこめられたキリスト教的主題(神・信仰・愛・罪・赦し…)や聖書的表現などを分析、読解する方法、およびそれらの作品の先行研究を踏まえての研究発表の方法を学び、各自発表し、併せて論文作成の手順と技術について学ぶ。					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	1. 演習中に取り上げる作品およびその発表について自分の読解や意見を述べるができる。			思考・判断・表現力/主体性	
2	2. キリスト教や聖書との関わりのある作品を取り上げ、キリスト教的主題や聖書的表現等に注目して分析、読解して発表することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	3. 自分の演習の発表を基にし、論文作成の手順と技術に即して、論文を完成させることができる。			知識・技能/思考・判断・表現力	
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	・演習中の発表(Ⅰ期とⅡ期、各1回)…30%			2	
2	・演習中の主体的参加態度、リアクションペーパー…30%			1	
3	期末レポート(Ⅰ期とⅡ期)…40%			3	
4					
5					
実務経験のある教員による科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
1 1期のイントロダクション 2 キリスト教と関わる作家と文学作品について① 3 キリスト教と関わる作品の研究発表の方法について 4発表① 5発表② 6 発表③ 7 発表④ 8発表⑤ 9 発表⑥ 10 発表⑦ 11発表⑧ 12発表⑨ 13発表⑩ 14研究発表を踏まえた論文作成の方法について① 15 1 提出レポートについての講評					
16 2期のイントロダクション 17キリスト教と関わる作家と文学作品について② 18キリスト教と関わる作品の先行研究を踏まえた、研究発表の方法について 19発表① 20発表② 21発表③ 22発表④ 23発表⑤ 24発表⑥ 25発表⑦ 26発表⑧ 27発表⑨ 28発表⑩ 29研究発表を踏まえた論文作成の方法について② 30 2期提出レポートについての講評					

定期試験 期末試験（レポート）
試験のフィードバックの方法 最後の授業で期末レポートの講評を行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 ・演習で取り上げる作品は、事前に授業中に指示するので、予習として読んでおき、他の発表者の作品に対して積極的に発言できるように予習しておくこと。（2時間程度） ・自分の発表を終えた後は、授業のなかで受けた指摘等をまとめておき、期末レポートに活かせるように復習しておくこと。（1時間程度）
必携書（教科書販売） 使用しない。
必携書（教科書販売以外） <必携書> 読んでくべき作品については授業中に指示する。
オフィスアワー ・オフィスアワーおよび質問等の仕方については授業中に指示する。
連絡先 yamane@m.ndsu.ac.jp
留意事項 ・演習では他の発表者の作品に対して積極的に発言できるようにすること。

キリスト教文学演習IIA				単位数	2単位
授業コード	15931	科目ナンバリング	410Z0-3400-o2	開講年度学期	2022年度第1期
担当者氏名	山根 道公				
時間割備考					
授業形態(主)	2 演習				
授業形態(副)					
本授業の概要					
近代・現代の日本文学において、芥川龍之介、太宰治、遠藤周作、三浦綾子、宮沢賢治などをはじめとしてキリスト教や聖書と関わりのある文学作品を書いた作家は実に多い。また、外国のキリスト教と関わる文学作品からも多大な影響を日本の文学者は受けている。そうしたキリスト教や聖書と関わりのある文学作品を取り上げ、そこにこめられたキリスト教的主題(神・信仰・愛・罪・赦し…)や聖書的表現などを分析、読解する方法を学び、各自発表し、併せて論文作成の手順と技術について学ぶ。					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	1. 演習中に取り上げる作品およびその発表について自分の読解や意見を述べることができる。			思考・判断・表現力/主体性	
2	2. キリスト教や聖書との関わりのある作品を取り上げ、キリスト教的主題や聖書的表現等に注目して分析、読解して発表することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	3. 自分の演習の発表を基にし、論文作成の手順と技術に即して、論文を完成させることができる。			知識・技能/思考・判断・表現力	
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	・演習中の発表…30% (到達目標2)			2	
2	・演習中の主体的参加態度、リアクションペーパー…30% (到達目標1)			1	
3	期末レポート…40% (到達目標3)			3	
4					
5					
実務経験のある教員による科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
1 イントロダクション 2 キリスト教と関わる作家と文学作品について 3 キリスト教と関わる作品の研究発表の方法について 4発表① 5発表② 6 発表③ 7 発表④ 8発表⑤ 9 発表⑥ 10 発表⑦ 11発表⑧ 12発表⑨ 13発表⑩ 14研究発表を踏まえた論文作成の方法について 15提出レポートについての講評					

定期試験 期末レポート（課題は授業中に指示）
試験のフィードバックの方法 最後の授業で期末レポートの講評を行う
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 ・演習で取り上げる作品は、事前に授業中に指示するので、予習として読んでおき、他の発表者の作品に対して積極的に発言できるように予習しておくこと。（2時間程度） ・自分の発表を終えた後は、授業のなかで受けた指摘等をまとめておき、期末レポートに活かせるように復習しておくこと。（1時間程度）
必携書（教科書販売） 使用しない。
必携書（教科書販売以外） 読んでくべき作品については授業中に指示する。I
オフィスアワー ・オフィスアワーおよび質問等の仕方については授業中に指示する。
連絡先 yamane@m.ndsu.ac.jp
留意事項 ・演習では他の発表者の作品に対して積極的に発言できるようにすること。

キリスト教文学演習IIB				単位数	2単位
授業コード	15932	科目ナンバリング	410Z0-3400-o2	開講年度学期	2022年度第2期
担当者氏名	山根 道公				
時間割備考					
授業形態(主)	2 演習				
授業形態(副)					
本授業の概要					
近代・現代の日本文学において、芥川龍之介、太宰治、遠藤周作、三浦綾子、宮沢賢治などをはじめとしてキリスト教や聖書と関わりのある文学作品を書いた作家は実に多い。また、外国のキリスト教と関わる文学作品からも多大な影響を日本の文学者は受けている。そうしたキリスト教や聖書と関わる文学作品を取り上げ、そこにこめられたキリスト教的主題(神・信仰・愛・罪・赦し…)や聖書的表現などを分析、読解する方法、およびそれらの作品の先行研究を踏まえての発表の方法を学び、各自発表し、併せて論文作成の手順と技術について学ぶ。					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	1. 演習中に取り上げる作品およびその発表について自分の読解や意見を述べるができる。			思考・判断・表現力/主体性	
2	2. キリスト教や聖書との関わりのある作品を取り上げ、キリスト教的主題や聖書的表現等に注目して分析、読解して発表することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	3. 自分の演習の発表を基にし、論文作成の手順と技術に即して、論文を完成させることができる。			知識・技能/思考・判断・表現力	
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	・演習中の発表…30%			2	
2	・演習中の主体的参加態度、リアクションペーパー…30%			1	
3	期末レポート…40%			3	
4					
5					
実務経験のある教員による科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
1 イントロダクション 2 キリスト教と関わる作家と文学作品について 3 キリスト教と関わる作品の先行研究を踏まえた、研究発表の方法について 4発表① 5発表② 6 発表③ 7 発表④ 8発表⑤ 9 発表⑥ 10 発表⑦ 11発表⑧ 12発表⑨ 13発表⑩ 14研究発表を踏まえた論文作成の方法について 15提出レポートについての講評					

定期試験 期末レポート（課題は授業で指示）
試験のフィードバックの方法 最後の授業で期末レポートの講評を行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 ・演習で取り上げる作品は、事前に授業中に指示するので、予習として読んでおき、他の発表者の作品に対して積極的に発言できるように予習しておくこと。（2時間程度） ・自分の発表を終えた後は、授業のなかで受けた指摘等をまとめておき、期末レポートに活かせるように復習しておくこと。（1時間程度）
必携書（教科書販売） 使用しない。
必携書（教科書販売以外） 読んでくるべき作品については授業中に指示する。
オフィスアワー ・オフィスアワーおよび質問等の仕方については授業中に指示する。
連絡先 yamane@m.ndsu.ac.jp
留意事項 ・演習では他の発表者の作品に対して積極的に発言できるようにすること。